

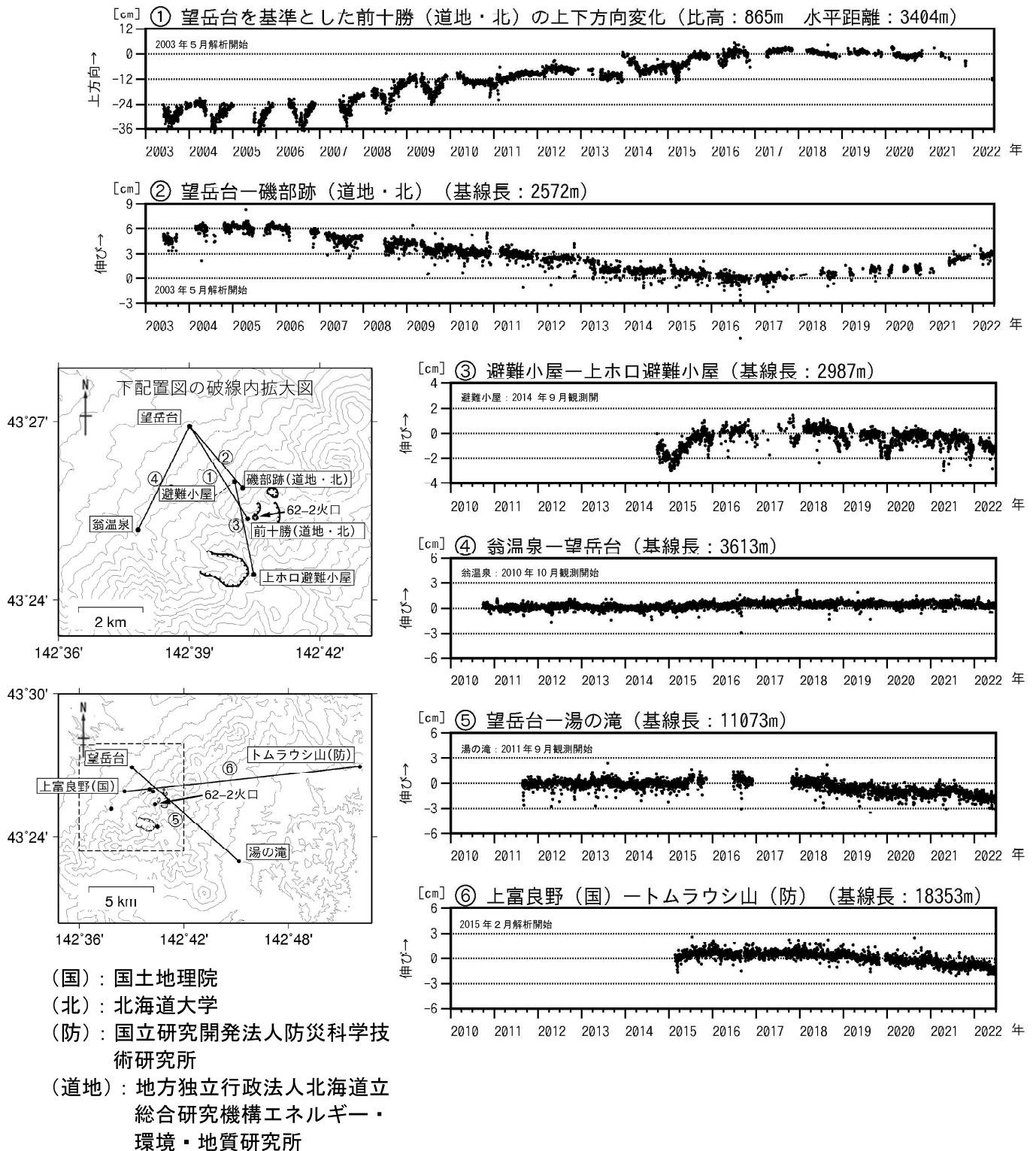


図17 十勝岳 GNSS連続観測による上下方向変化及び基線長変化（2003年5月～2022年6月）及び観測点配置図

グラフ①～⑥は観測点配置図の基線①～⑥に対応しています。
グラフ中の空白部分は欠測を示します。
2010年3月に解析方法を変更しています。

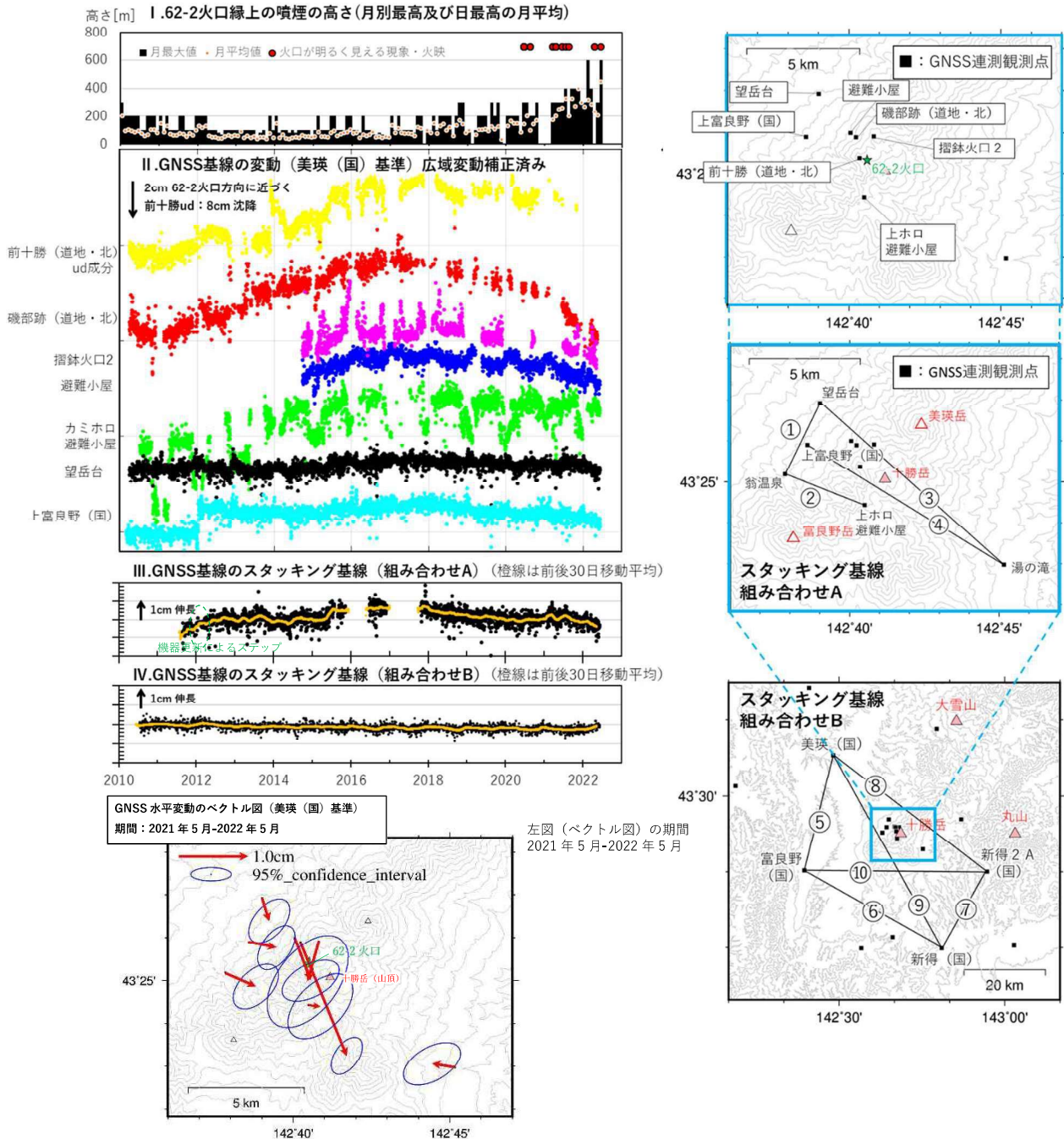


図18 十勝岳 GNSS基線長変化と62-2火口の噴煙高度の推移(2010年~2022年5月)及び2021年~2022年の変動ベクトル図

- 表示した GNSS データはテクトニックな広域変動の影響を推定して除去しています。
- II 図は美瑛(国)を基準とした各観測点の水平変動を 62-2 火口方向に合成したものです。
- III 図スタッキング基線 A は基線①~④、IV 図基線 B は基線⑤~⑩の各基線長をそれぞれの不偏偏差の大きさに準じて重みをつけて足し合わせたものです。
- 2017年頃から、礫部跡(道地・北)観測点などの62-2火口に比較的近い観測点を中心に火口方向の短縮変動が観測されており、2021年夏頃からそのレートが増大しています。また、火口から5km程度離れた観測点の組み合わせによるスタッキング基線Aでは、2018年以降わずかな短縮傾向が続いています。これらの変動と同期するように、62-2火口の噴煙量増加等の放熱活動が活発化する傾向が認められています。
- 上項の変動は、変動ベクトルの分布から収縮性の地盤変動と推測されるものの、2006-2017年頃の膨張性の変動量と比べ小さく、山体のごく浅部では2006年以前と比べて引き続き膨張した状態が維持されていると考えられます。
- 長い基線の組み合わせによるスタッキング基線Bでは、特段の変化はみられていません。

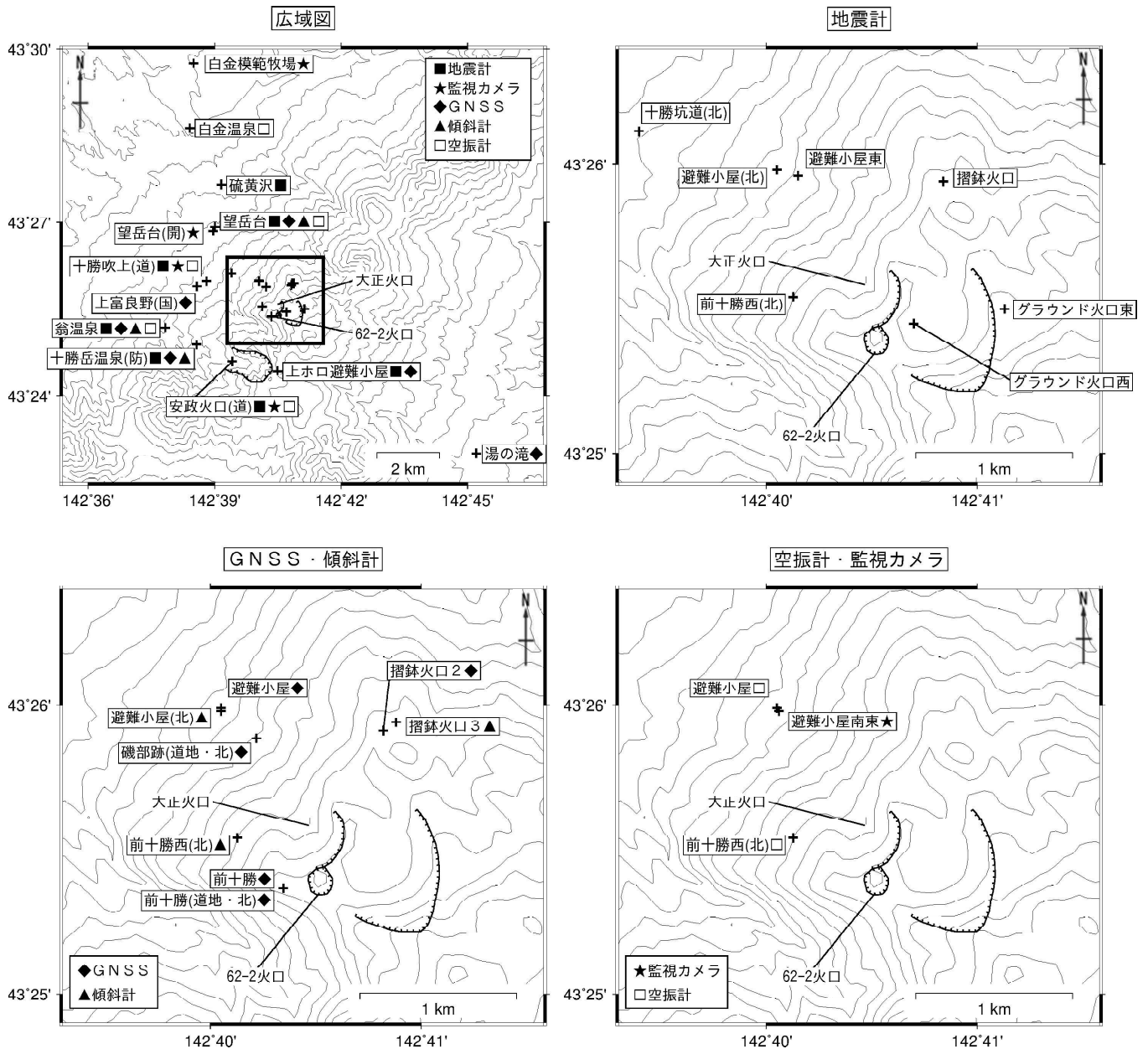


図19 十勝岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で示した領域を拡大したものです。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

- (開) : 国土交通省北海道開発局
- (国) : 国土地理院
- (北) : 北海道大学
- (防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所
- (道) : 北海道
- (道地) : 地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所